

授業の方法と進め方	第2, 4, 6, 8, 10, 11, 13回の進め方 (1) 授業前半：教員の説明を聞く。(2) 授業後半：国試過去問に取り組む⇒クリッカーで感想入力国試過去問をすでに済ませた人には模試過去問を希望に応じて配布する。第3, 5, 7, 9, 12, 14回の進め方 (1) 授業序盤：何も見ずに配布された問題(20問)を解く⇒回答用紙提出⇒ユニバで提出。(2) 授業中盤：解き終わった順で、数名のグループとなり、資料を参照しながら話し合って統一回答を作成する。(3) 授業終盤：教員より回答を受け取り自己採点⇒グループ提出用を提出。
授業計画【第1回】	本授業の概要・進め方・予習の仕方等の説明 ：授業概要、授業の進め方、授業計画、授業の到達目標、時間外の学習、評価方法等について理解し、予習に取り組む。
授業計画【第2回】	健康の概念、公衆衛生の概念 ：プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違い等について理解する(国試過去問15問)。
授業計画【第3回】	2回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第4回】	環境と健康 ：環境保全に関する条約や環境汚染、四大公害等、温熱、上下水道、廃棄物処理などの環境衛生等について理解する(国試過去問18問)。
授業計画【第5回】	4回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第6回】	保健統計(1) ：人口静態統計と人口動態統計の違い、患者調査と国民生活基礎調査の違い等について理解する(国試過去問12問)。
授業計画【第7回】	6回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第8回】	保健統計(2) ：保健統計(1)で学習した以外の各種調査について理解する(国試過去問9問)。
授業計画【第9回】	8回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第10回】	疫学手法 ：症例対照研究とコホート研究の違い、感度、特異度、陽性反応の中等等について理解する。
授業計画【第11回】	疫学手法 ：国試過去問19問を解く。
授業計画【第12回】	10～11回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第13回】	生活習慣の現状と対策(1) ：健康の生物心理社会モデル、健康日本21(第2次)等について理解する(国試過去問11問)。
授業計画【第14回】	13回目の復習問題(20問)を解く。
授業計画【第15回】	定期試験にむけてのまとめ ：2～13回を通して学習したことの振り返り。

授業の到達目標	①国家試験に必要な基礎的な知識および類似問題を解く際に活用できる力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ②社会人となった時、管理栄養士として他者と連携し、協調・協働して行動できる力を身に付ける【協調・協働力】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学習【予習】	<学習時間：30分～1時間程度> (1)教科書、過去問集、暗記シートに目を通す。 (2)板書を書き写すのに時間がかかる人は、事前にスライドをダウンロードして教科書等に書き込んでおく。 (3)自宅のPCで過去問解説をあらかじめ見たい人は、動画をダウンロードして視聴する。
授業時間外の学習【復習】	<学習時間：30分程度> 定期試験に向けて、学習した知識を長期的に維持するための工夫をしながら振り返る。
課題に対するフィードバック	(1)国試過去問の解説動画は授業日前にアップする。 (2)当日の問題解説は、グループワーク終了時に配布する。 (1)(2)のどちらについても、質問等には授業時間外も含め対応する。
評価方法・基準	1)復習問題の正答率：約2割 2)定期試験：約8割 3)取組態度：適宜 上記の項目と割合に基づき、相対的かつ総合的に評価する
テキスト	カレント 改訂 社会・環境と健康 公衆衛生学（建帛社）
参考書	
備考	